

グループホームさくら園(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 20 年 10 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	1890700014
法人名	ケアバンク株式会社
事業所名	グループホームさくら園
所在地	福井県鯖江市糺町第14号6番地 (電話) 0778-51-1711

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年10月16日

【情報提供票より】 (20 年 8 月 5 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 9 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人、非常勤 4 人、常勤換算 17.5 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨2階建て 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要 (8 月 5 日 現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	6	要介護2	5
要介護3	5	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 83.5 歳	最低 69 歳	最高 102 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	馬場医院、いなみ歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは鯖江市の郊外の日野川沿いにあり、ホーム周辺は田んぼが広がる緑豊かな環境である。近くには量販店もあり、散歩がてらに買い物に出かけるなど活用されている。ホームは運営者が居住する昔からの集落である地区に属し、地域との関わりもあるが、ホームの近くに広がってきている新しく住宅が立ちはじめた地区との関わりが今後の課題となってきた。また、併設の学童保育「ピーターパンクラブ」が現在は休止状態であるため、児童と高齢者の世代間交流が可能な事業所の特徴を活かすためにも、その再開が期待される。ケアの面では、ホーム独自のアセスメントで入居者の状況を細かく把握し、毎月入居者の介護計画の見直しを行っているほか、家族あてにも毎月入居者ごとのたよりを作成して暮らしぶりを知らせるなど、入居者・家族への個別支援・個別対応に努めている。管理者はサービスの質を高めていくことに積極的であり、前回の外部評価結果を基に改善に向けて取り組んだことも多く、開設から3年目を前に、今後いっそうの発展が期待できるホームである。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を受け、地域との関わりを重視し、入居者の人権を尊重するという内容のホーム独自の理念を作り上げている。また、共有空間の見直しや鍵をかけないケアの実践においても、少しずつであるが改善に向けた取り組みが見られ、サービスの質の向上に外部評価が活用されていることが確認できた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者が職員の意見を聞きながら実施しており、自己評価の取り組みを通して日頃のケアの気づきや見直しにつながっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は2か月ごとに地域包括支援センター職員、市職員、地域住民、家族代表等のメンバーが参加して開催されている。会議では外部評価の結果も報告され、サービスの改善に向けてメンバーから助言を受けている。さらに地域内の情報等も提供してもらっているが、ホームに近い新しい住宅地域との関わりがあまりないため、今後は運営推進会議にも参加を呼びかけ、積極的な交流を図っていくことを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>管理者は面会時にできる限り家族と話しをするように心がけているが、さらに丁寧に意見を聞くために、今後個別の面談を設けることも検討している。個別面談の実現とあわせて家族が一堂に会して意見を述べられるような機会づくりも検討されることを望みたい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りや神社の行事等に参加しているが、日々の関わりという点では交流の機会はまだ少ない。今後は、地域の一員として清掃活動に参加するなど、ホームの認知度を高める積極的な取り組みが期待される。また、近くには新しい住宅も広がってきており、運営者も居住する昔からの集落との関わりとあわせて、新しい住宅地域との関係づくりも期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価での指摘を受け、管理者は職員の意見を聞きながら、「地域との関わりを重視して、入居者の人権を尊重する」というホーム独自の理念をつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目に付きやすい玄関や共有スペースに掲示しており、職員は毎朝の引継ぎ時と月1回の職員会議で理念を唱和し、意識づけを図っている。今後は、理念に沿った月間のケア目標を立てていくことも検討している。		
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の関わりという点では交流の機会はまだまだ少ないが、地域の夏祭りや神社の行事等に参加して交流を図っている。また、入居者が無断で外出してしまっても、近所の人々がホームに知らせてくれるなど、徐々に協力関係ができてきている。		入居者が日々地域とのつながりを感じながら暮らしていけるように、ホームにはその基盤づくりと、積極的な地域への働きかけが求められる。例えば、自治会の清掃活動に参加するなど、地域の一員としての役割を担い、ホームの理解に向けた地道な活動を期待したい。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員の意見を聞きながら自己評価を行っており、自己評価を通じてケアの振り返りに活かされていることが職員へのヒアリングから確認できた。前回の外部評価結果は玄関に置いて誰もが閲覧可能な状態にしており、運営推進会議でも報告して、改善への取り組みに向けて活用している。		
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回、地域包括支援センター職員、市職員、民生委員、家族代表等のメンバーが参加して行われている。メンバーからは運営に関する率直な意見を出してもらい、サービスに取り入れられたり、地域内の情報等の提供も受けている。		ホームに近い新しい住宅地域との関わりがあまりないため、今後は運営推進会議にも参加を呼びかけ、積極的な交流が図られていくことを期待したい。
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営上の疑問や事故報告等を電話または直接出向いて相談する良い関係が構築されており、日々連携が持たれている。		
		4 理念を実践するための体制			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日々の様子をこまめに伝えるとともに、書面では毎月、入居者個々の暮らしぶりを担当職員がたより形式にして、それぞれの家族に送っている。たよりにはホームからの連絡や入居者の楽しい写真も掲載して、丁寧な作りとなっている。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているほか、管理者は面会時にできる限り家族と話をするようにしている。家族会設置に関する意向確認についても家族全員にアンケートを実施するなどの取り組みがなされている。		今後はさらに丁寧に意見を聞くために個別の面談を設けることも検討しているため、その実現とあわせて家族が一堂に会して意見を述べられるような機会づくりも検討されることを望みたい。
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視しており、職員はユニットごとに固定して原則異動も行わない方針である。運営者は職員の苦勞やストレスを和らげる配慮も行っているが、昨年は介護未経験の職員が定着せずに退職が多かった。		職員の退職は入居者にもダメージとなることから、職員採用において認知症介護という専門分野における資質を見極めるためにも、管理者等が現場職員の立場で関わることを望みたい。あわせて安定したケアの継続のために職員のストレスへの配慮も期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は2～3か月かけて先輩職員から個別ケアを学び、働きながらトレーニングしていく体制がとられている。外部研修は介護技術向上研修や認知症の研修等、職員の経験に応じて受講を勧めており、業務として参加できるようになっている。職員会議で研修報告を行い、情報の共有を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の事業者連絡協議会に参加するほか、管理者が市内の同業者と積極的に情報交換を行っており、今後も横のつながりを広げていきたいと考えている。また、一般職員同士の交流も図るため、連絡協議会で企画されている職員交換研修についても、積極的に協力する意向である。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人、家族に見学してもらい、その時に他の入居者と短時間でも一緒に過ごしてホームの雰囲気を感じてもらおうとしている。入居後しばらくは、家族に面会に来てもらえるように依頼し、希望があれば家族が泊れるようにも配慮している。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の食事作りや洗濯物たたみ、畑作業等を通じて入居者から教えられることも多く、日々生活を共にする中で、入居者の笑顔を見られることに喜びを感じていることが職員へのヒアリングから確認できた。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らしぶりや好みに関する情報を本人や家族、関係者からできる限り集めて、生活の全体的な把握に努めている。入居してから本人との会話から新しい気づきを得ることも多く、その都度ホームでの生活の中に取り入れるようにしている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、日常生活動作や認知症、健康状態、医療等のホーム独自のアセスメントをとり、カンファレンスで話し合っ、計画作成者が家族等の意向も取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況を毎日記録し、入居者全員分のモニタリングを毎月行って、計画と実際のケアにズレが生じないように丁寧な見直しがなされている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内で実施していた学童保育が、講師の都合で現在は休止しているため、ホームとしても再開したいと考えている。また、開設から3年目を目途に短期入所の受け入れも実施していきたいと考えている。		児童と高齢者の世代間交流が可能な事業所の特徴を活かすためにも、また、地域との交流やホームに対する認知度を高めるためにも、学童保育の早期の再開を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居しても、これまでの主治医を継続している方がほとんどである。受診は家族に付き添いをお願いしているが、その場合も普段の健康状態や血圧等の記録をコピーして家族に渡すようにしている。精神科を受診する場合は必ず職員も同行し、日々の状態を伝えるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院した場合もできる限り退院まで待つ方針であり、重度なまま退院しても再度、身体機能が向上するように努力している。どうしても医療的な管理が必要で、ホームでの生活が難しくなった場合には、他施設を紹介している。今後は家族に終末期の意向確認をしていきたいと考えている。		終末期の対応方針が明文化されていないため、家族への意向確認とともにホームとしての方針を明確化することが求められる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	記録は入居者の目に触れないように記入し、管理も生活スペースとは別の場所で慎重になされている。入居者への言葉遣いや羞恥心への配慮は新人研修や職員勉強会、また日常のケアにおいてその都度指導や徹底がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝夕の読経や畑作業、漬物作り、散歩等、入居者の希望を確認しながら、一人ひとりのペースを大切に柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を調理したり、入居者も準備や後片付け等、できることは協力してもらいながら食事を一緒に楽しむ工夫がなされている。入居者の誕生日には希望のメニューで祝い膳を出している。食べ残す人も少なく、食事が美味しいという入居者の声もヒアリングから確認できた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	マンツーマンの介助で毎日午後から入浴できる体制が取られている。入浴回数は、入居者の希望やこれまでの生活習慣に応じて柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとの行事や日々の生活の中でのばた餅作りや漬物作り等の楽しみごとのほか、毎日の食事の準備や後片付け、朝夕の読経や洗濯物たたみ等の役割を担ってもらい、入居者の力を引き出す支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の量販店やショッピングセンターへの買い物、馴染みの美容院等への外出支援がなされている。外に出たいという入居者には、散歩を日課として気分転換が図れるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が生活スペースから離れており職員からは死角となるため、入居者の状況や日によって施錠している時間帯がある。職員は施錠がもたらす入居者への弊害を理解し、施錠を常態化することはなくなったが、自由に出入りできる状況ではない。		前回の外部評価での指摘を受け、運営推進会議で意見を求めたり、職員間の連携を高めたりと少しずつ鍵をかけないケアに向けて工夫しており、施錠が入居者にもたらす影響と家族や地域への印象等のデメリットを踏まえ、今後もさらなる取り組みが期待される。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練のうち1回は消防署に立会ってもらい、夜間等を想定しながら、当日勤務の職員と入居者が参加して訓練を行っている。また、実際の火災時には、地域の自警団にも協力してもらえ体制となっている。		職員は、落ち着いて誘導ができるよう、訓練を重ねる必要があり、当日勤務の職員だけでなく、全職員参加のもと、自警団や近所の方々にも参加を呼びかけて訓練されることが望まれる。また、入居者がいる事業所であるため、災害に備えた食料や飲料水の備蓄も求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	料理講師の経歴をもつ調理師が、カロリーや栄養面も考慮して献立を立てている。職員は入居者と一緒に食事をとっているため、摂取量や水分量の把握もできている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーで段差がなく、車いすの入居者も移動しやすくなっている。1階、2階とも廊下を挟んで左右に居室が設置されており、食堂兼居間の一角には絨毯にソファが置かれており、洗濯物をたたむ作業に使われたり、廊下には絵画や入居者の作品も飾られている。		廊下床面の配色等から受ける印象が暗く、前回の外部評価での指摘も踏まえて、廊下にテーブルや椅子を設ける工夫も見られるが、くつろぐ空間として活用されているとはいえない。より手作りの掲示物を増やしたり、可能であれば、壁や床の色について再検討されることを期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室があり、全室エアコンが設置されている。入居に際しては、馴染みの物を持ち込んでもらうように家族にも協力してもらい、使い慣れたタンスやカーペット等が配置された居室も見られた。また、家族の写真や手作りの物等が思い思いに飾られている。		

グループホームさくら園(2ユニット共通)

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と地域の交流」を柱に、園独自の理念を作り、掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝の引継ぎの時、月1回の職員会議で唱和し、理念の共有と実践に向け意識の向上に努めている。		今後も継続していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や地域の人たちが来られた際、園の理念を理解してもらえるよう、玄関やリビングに掲示している。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	人家から離れており、日常的な交流の機会が少ない。顔を会わず機会には挨拶を心がけている。		今後も継続していく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、催し物に参加。地元神社のどんど焼き、夏祭りに参加し、地元の人々との交流を図っている。運営推進会議でサロン活動、公民館活動などの情報を得、参加にはいたっていないが、活動者との話し合いが持て気軽に寄ってもらえるよう		今後も行事はもちろん、清掃活動など地域の活動に地域の人と一緒に参加していきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行っていない。		今後検討していく。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価の各項目内容を理解し、その人らしい暮らしの継続、居心地よい環境作りなど、理念の実践に向け取り組んでいる。		評価を活かして具体的な改善策に取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットを取り入れ、事故防止、再発防止を検討し、利用者の安全に努めている。センター方式は、数枚のシートしか今のところ利用できていない。		センター方式の活用を充実し、個々の計画書の見直しをしていきたい。また、ヒヤリハットを今後も継続して行く。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営にあたりわからないことが生じると、電話または訪問して、随時助言をもらっている。(身体拘束、看取り介護など)		今後も市町担当者とは関係を密に相談、助言を頂き、サービスの質の向上に努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の利用は2名。管理者は7月にも研修に参加。その他職員の研修参加、認識はまだまだ不十分な状況。		成年後見制度を手続きされた利用者が居られることもあり、研修会には積極的に参加していきたい。また、これから必要な入居者の方もおられるので、活用できるよう関係者と話し合いをもっていく予定。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が認識ある対応に勤めている。		今後も継続していく。
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解が得られるよう十分に説明。わからないことを尋ねられたときには、納得頂けるまで説明している。特に解約につながる話の時は家族の不安が大きいため、慎重に丁寧に、理解していただけるよう気をつけている。		今後も継続して、不安のないよう対応していきたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に決めている日や場所はないが、日々の生活の中で得られた苦情や不満は管理者に報告し、速やかな対応に心がけている。また介護相談員派遣を実施している。		今後も継続していく。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回園からの便り(さくらだより)を個別に送り、園での様子、生活ぶり、健康面などをお知らせしている。		今後も継続して発行。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置、苦情相談の窓口を契約時に説明している。また面会時にはできる限り家族との話を設け、苦情となるものは職員会議や勉強会などで報告し、その改善に努めている。		今後も継続していく。さらに個別の面談会も実施していきたい。家族会については全家族にお尋ねしたところ、個別に充分話ができていなくてよいという意見がほとんどであったため、行っていない。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット別に勉強会を設け、職員の意見や提案を聞く場としている。		今後も継続していく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	朝早い通院の介助など、時間帯を調整して、要望に応じている。		出来る限り要望には対応できるよう調整していきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者から尋ねられた時、話している。		生活も徐々に長くなってきているので、出来る限り利用者の方へのダメージを防ぐよう配慮していきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協の生涯研修、介護技術向上研修に新人、中堅ごとに参加を図っている。また新人には専門病院で開催される研修への参加をはかり、認知症への理解を深めていくようにしている。		今後も継続していく、経験年数を経た職員には認知症介護実践研修への参加も図っていききたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修に参加しており、同業者との交流を持つ機会はあるが、他の職員が交流を持つ機会はなかった。		グループホーム協会の研修の受け入れをし、他ホームへ職員を研修に出したり、他ホームからの職員を受け入れたりして交流や情報交換を行い、運営やサービスの質の向上にいかしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦会を行っている。健康面に配慮し労をねぎらう言掛けに努めている。		今後も継続し、さらに職員の慰安旅行も行っていききたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	待遇の見直し、ベースアップ、賞与の取り入れ、職員が希望する研修への参加を図っている。		今後も継続していく。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前、後に本人と話すの機械を持ち、思いを十分に聴き受け止める姿勢に心がけている。本人の思い、不安に思っていることなどを他職員にも伝え、内容によっては計画書に挙げていく。		利用者の方の話には十分耳を傾け、受け止める姿勢で業務に臨みたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前には、必ず家族との面談を持ち、家族の思いや不安なことを十分に聴き、受け止めて行く姿勢に心がけている。		今後も継続していく。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例は無く、入居につながっている。		今後状態に応じて、必要としている支援を見極めて対応していききたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に出来る限り本人と一緒に見学して頂き、園の生活ぶりを直接見ていただいている。不安なく徐々に慣れて頂けるよう、家族には入居後しばらくはこまめに顔を見に来て欲しいことを依頼している。		今後も継続していく。
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常会話、レクリエーション、家事など日々の生活を通して利用者の理解と尊重を念頭におき、業務にあたっている。		今後も継続していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の時、状況によってレクリエーションや作業、行事、団らんに参加していただき、一緒にひとときを過ごしてもらうことも行っている。また、職員は常に家族の面会を歓迎し、家族の方を大事に思う気持ちで務めている。		今後も継続していく。また、今年の納涼祭は家族参加を呼びかけ、準備、祭りなど家族の方と一緒にいき、共に行事を成し遂、関係を深めたいと思っている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の要望にて定時に毎日電話をかける、遠方の身内の方へ便りを出すなど、行っている。		今後も継続していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人(入居前利用のヘルパーや宗教仲間)の面会を快く受け入れ、面会の継続、行事への参加を声かけている。入居前から利用の地域の食事会への参加を継続し、見守りしている。月1回の友人宅への訪問の支援を行っている。		今後も継続していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	掃除や調理、その他色々な活動への参加を促して、利用者同士が関わり合い、孤立しないように努めている。		今後も継続し、支え合える共同生活を支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ継続を必要とする例がない。		今後必要があれば、応じていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談や、入居後それぞれの思いや家族の意向を聞き出す事に努めている。		今後も継続していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やケアマネージャー、他サービス事業所などからの情報収集に努めている。		今後も継続していく。センター方式活用を充実していく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の面談や関係者からの情報、入居後日々の生活を見たりアセスメントを基に総合的に把握するよう努めている。		今後も継続していく。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書の作成と見直し時に、家族に要望を尋ね反映するようにしている。また、定期的にカンファレンスを行い、見直しを行っている。		今後も継続して、利用者がより良く暮らせるよう図りたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じての見直し、月1回のカンファレンスと毎日支援内容実施チェックを行っている。状態変化が見られたときは、家族に相談しながら随時検討し対応している。		今後も継続していく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録やケアの実践結果を個別記録に記入している。気づきや新たな情報の記録が充分でなく情報がうまく共有できていない所もある。		個別記録と気づきや新たな情報の記入法を検討し、情報の共有を図っていく。
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、理美容院の利用、日用品の補充など、個々の要望に出来る限りの対応を行っている。		今後も継続していく。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が1人で外へ出て行ってしまった時、交番に依頼し一緒に捜してもらったことがある。又、吹奏楽をしている学生にボランティアで入居者の好きな童謡など演奏してもらっている。		今後、必要性に応じて協力を得、支援していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところなし。		希望があったら検討していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところなし。		希望があったら検討していく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今のところなし。		希望があったら検討していく。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	今のところなし。		希望があったら検討していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	園の方で通院する時には、地域の看護職に相談することが出来ている。		今後も継続していく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には日々の生活や状態について情報を提供している。又、入院中には連絡を取り合い状態の把握に努めている。		今後も継続していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	今のところ行っていない。		今後に向け、家族の今後に対する意向を確認し、家族・職員全員が方針を共有していきたい。
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度となった方には、他施設への入所を相談している。終末期を迎えた入居者はこれまでも現在もいない。		今後は園を望む場合「できること、できないこと」を十分に話し合い、終末期をどこで迎えたいか医療に対する思いはどうなのか、一人ひとり家族の意向を確認したい。
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入院となり退居に至っている。事前に入院先とは電話にて状態を伝えている。入院当日には文書で生活状況を伝えるなどしている。		今後も継続していく。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者、職員それぞれ契約書にて秘密保持を書面で誓約している。言葉かけや対応は毎日の理念の唱和で意識の向上を図っている。接遇の研修は、新任職員研修参加者のみ参加している。		継続していく。接遇の研修の機会があれば職員の参加を図っていく。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	その日の洋服、飲み物、家事作業などあらゆる場面で入居者が選んだり決めたりできるよう努めている。		今後も継続していく。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	日々の生活は職員の誘導のもとで流れてはいるが、常々季節に応じて出かけた所、食べたい物やしてみたいこと等希望を聞きだし行っていくことに努めている。		1人ひとりのペースを大切に、今後も継続していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	地域的美容師に来てもらう、希望の理容店に来てもらう、希望の美容院に連れて行くなど、支援している。		今後も継続し、出来る限り利用者、家族の意向を聞いていきたい。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	調理の下準備などできる作業を、好みや力によって、包丁を使う作業、混ぜる作業、けずる作業など振り分けをして行っている。また、お茶碗洗い、お盆拭きなど後片付けも一緒に行っている。		出来るだけ皆が食事作りに参加でき、皆で作り上げた喜びを味わえるよう図っていききたい。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	健康上、支障のないものは特に禁じていない。好みのおやつや飲み物などは取り入れるようにしている。現在、お酒やたばこを楽しむ利用者はいない。		今後、お酒やたばこを楽しむ利用者がいれば、楽しめる工夫を行っていききたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用している人でもトイレでの排泄に取り組んでいる。可能な限り日中、布パンツ使用し気持ちよく過ごせるよう支援している。		継続し、一人ひとりの能力を見極め取り組んでいる。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	予定を決めて入浴してもらっている。通院前など入浴希望があれば対応している。夏場は希望により入浴回数を増やしている。		時間帯などの希望、回数を検討していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人の生活習慣を大切にしている。		今後も一人ひとりの生活習慣を大事にしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴や趣味、好きなこと、習慣としていたことなど、生活歴の情報を収集し、料理、編み物などを取り入れ役割や楽しみごとに繋げるよう支援している。		今後も継続し、日々の生活の中で得た新たな情報も取り入れていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルがないよう十分注意をしながら支援している。個人の買い物は自分で支払が出来るよう支援している。お金の管理が出来ない利用者が多く、所持していないことが多い。		今後も継続していく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園外の草むしり、畑作業、買い物など希望に副えるよう努めている。		今後も継続していく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	訪ねてみたかった観光地へ出かけている。季節の花などを見に出かける機会をつくる。		無理のない程度に家族と共に出かけられるよう図っていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があり、家族と相談のうえ定時に毎日電話をかける支援をしている。要望があれば切手、葉書の購入、ポスト投函を支援している。		今後も継続していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者を快く受け入れ、居室や食堂など自由に面会していただいている。		今後も継続していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重度となった入居者、転倒にて骨折となったケースがあり各階毎に勉強会で具体的な行為を理解し合っている。わからない行為は市に尋ね、身体のみならず言葉の拘束も認識し合い取り組んでいる。		今後も継続していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	できる限り玄関は施錠せず、2階のアコーディオンカーテンは日中は開けるよう努めている。入居者が外に出たい時は一緒に歩くなど、職員の施錠しないことへの理解が少し得られてきている。		利用者にとって弊害になっていることを職員は十分理解していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に居られる、ベンチに座っておられるなど所在には注意し、気になるような様子の時にはそのことを他の職員にも伝え、皆で注意するようにしている。		今後も継続していく。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	顔剃り用カミソリ持ち込みの入居者が居られるが、本人と話し合い職員が管理し必要時に手渡ししている。異食など問題行動がない限り、できる限り持ち込み物は本人の居室に置くようにしている。		利用者の能力に応じて、どこへ置いたら安全か一緒に話をして決めていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態、行動を振り返り、転倒や窒息、行方不明などの防止策と対応策を各階毎に勉強会で話し合い職員が確認し合っている。火災に関しては年2回の避難訓練の実施、毎日の防火点検を行い職員の意識を高め事故防止に取り組んでいる。		今後も継続していく。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の具体的な対応法のマニュアルを作成し各階に設置し緊急時に備えているが定期的な訓練は行っていない。行事によっては(もちつき等)事前に職員会議等で対応策を演習し行事に臨むようにしている。		職員会議や勉強会で演習も行っていきたい。消防署による応急手当・初期対応の訓練の実施を予定している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生時には、地域の自警団に速やかに協力を得られる体制を整えている。年2回の避難訓練の実施と地区の避難場所を職員に周知徹底した。		今後も継続し、入居者が安全に避難できるよう努めていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々の状況などを面会の時などに伝えて、今後起こり得るリスクについて相談、理解を求めている。急を要する時には、電話で速やかに伝えるようにしている。		計画書の内容についてはどのような状況か、数人の家族に伝えているだけなので、どの利用者も行っていき現状と今後予想される事などの理解を求めていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、その他薬の管理、通院、日々の観察に十分注意を払っている。異変など気付いたことは申し送りを十分に言い、漏れる事なく情報を共有して観察するようにしている。必要に応じて受診、家族への連絡、経過観察を行っている。		今後も継続していく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量に関しては、朝、昼、夕の箱を用意し、それぞれ数を書き込みセットしている。薬の説明書を薬の中に入れてはいるが、特に目的や副作用などについて全職員が確認していない。		薬の目的や副作用などの内容についての情報収集を徹底し、薬に関する認識を高めていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	極力脂肪の取り過ぎを減少し、こまめに根菜の利用と塩分控えめ、こんにゃくや朝食のフルーツの取り入れに気をつけている。ラジオ体操や歩行訓練、足上げ運動など適度な運動の取り入れを行っている。特に強い便秘の方には寝起きの乳酸飲料、牛乳などの摂取を心がけている。		今後も継続していく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯で口臭のある方は、就寝前にボリデントで義歯の洗浄を行っている。ご自分の歯の利用者1名は、家族の要望もあり、おやつ、食事の後は毎回歯磨きを促している。義歯のない利用者は毎食後うがいを促し口腔の清潔に取り組んでいる。		今後も継続していく。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、動物性たんぱく質は1日60gを目安にしている。緑黄色野菜を多めに接種できるよう献立を立てている。午前、午後、入浴後の水分補給、食事には汁物の取り入れに注意している。利用者それぞれの食べられる量の盛り付けと食べやすい形態の工夫をしている。		今後も継続していく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食材で土の付いた物は台所に持ち込まない。便座やドアノブ、蛇口、スリッパなど毎日1回はアルコール消毒をしている。外から帰った時やおやつ、食事前の手洗い、消毒を行っている。		今後も継続していく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	高温殺菌、定期的に冷蔵庫内のハイター洗浄の実施。こまめに買い物をして冷蔵庫内の空間を多くする、食品の先出しに心がけている。		今後も継続していく。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横にベンチを設置した。		更なる工夫を講じていきたい。
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	園内にブラインドや簾で強い光を遮っている。リビングには季節感ある手作りカレンダーを飾り、園内各場所に四季折々の花を活け季節感を取り入れている。		入居者の居室も今後は工夫していきたい。
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関に椅子を置いて、くつろげる場所の工夫をしている。また、アコーディオンカーテンを開け空間を利用して椅子、テーブルを置きくつろぎの場所としている。		今後、安全面を考慮しながらさらに居心地のよい環境づくりをしていきたい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ自宅ですべて使っていた馴染みのある家具、寝具などを持ってきてもらっている。また、ベッドやタンスなどの配置は、自宅で過ごされていたようにそれぞれ自由にしてもらっている。		馴染みのあるものや好んでいた置物、装飾品などの持ち込みの協力を家族にも声かけしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂、廊下、居室など窓を開けて換気。トイレは常時換気扇。入居者の体調に合わせて冷暖房を利用。風向きにも注意して直接風が当たらないようにしている。冷房温度は26～27度とし外気温との差が大きくなるようにしている。		今後も継続していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置して、可能な限り安全に自立した生活が送れるようにしている。また1階のみではあるが、居室に和室を設け一人ひとりの身体機能に応じた生活が送れるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家族に確認をとったうえで、居室に名前を表示。トイレや浴室の表示。能力に応じて居室タンスに種別ごとに表示の工夫をしている。		個々の状態に応じて今後も工夫していきたい。
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前の広場で、日向ぼっこや気分を変えてお茶を楽しんだり、夕涼みなどに活用している。ホームの周りを散歩道として活用している。		今後も継続していき、もっと気軽に戸外を活用できるようにしていきたい。
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所近くにある畑(約1反)にて色々な野菜を作り、園内の食材としている。ここでは、利用者の活動能力に合わせて畑の草むしり、野菜栽培、野菜の調達等の活動を行っている。また、取れたてで新鮮な野菜を使った料理メニューに合わせ、料理の手伝い等の活動も行っている。お米も地元コシヒカリを精米してすぐに使うなど、利用者の皆さんが日々の食事を楽しみにできるよう力を入れて取り組んでいる。